



幹部職員が集まり、市内の状況などの報告を受ける

緊急経済対策会議

追加の緊急経済対策を決定

第2回となる市緊急経済対策会議を2月26日、市役所本庁舎で開催しました。

この会議は、急激な景気悪化に伴う諸問題に対応するため、昨年末に発足した組織です。今回の会議では、これまでの実績と市内企業の状況を検討協議し、今後の方針を決定しました。

このうち、現況の報告では、中小企業緊急融資等に関する相談が145件、日系人就職支援の利用者数が50件寄せられたことなどが報告されました。

また、市内製造業の約4割が回答したアンケート調査では、約8割の企業が前年より業況が「悪化」と答え、昨年10月からの解雇者（見込みを含む）は、771人になると回答していることが報告されました。

そして、今回追加する対策として、市の制度資金を拡充することが確認されました。これは、中小企業者向けに設けられるもので、円滑な資金調達を支援することを目的としています。（詳細左記）

市では、状況の変化などに応じ、今後も随時会議を開催する予定です。

市制度資金の拡充

市では、中小企業者への緊急経済対策として市制度資金を拡充します。

【運転資金について】

- ・借入期間を5年以内から7年以内へ延長。
- ・借入限度額を500万円から1,000万円に拡大

【緊急借換対策資金の新設】

- ・市中小企業振興資金のうち、融資実行後1年以上経過したものを対象とした、借換用のメニューを新設（平成22年3月31日まで）

【貸付金利の引き下げについて】（3月1日より）

- ・中小企業振興資金（運転・設備） 2.2%→2.0%
- ・緊急借換対策資金 2.5%→2.3%

商工観光課 商工労政係
 (TEL77・3111 FAX77・6060)
 市商工会 (TEL87・9750 FAX72・8491)

出資法人あり方検討専門委員会

市出資法人(第三セクター)の経営改善の進ちょく状況まとめる

市出資法人のあり方検討専門委員会（委員長：河藤佳彦 高崎経済大学准教授）は2月20日、「安曇野市出資法人の改善状況に関する意見書」を市長へ提出しました。

この専門委員会からは、昨年2月18日に提出された「安曇野市出資法人のあり方等に関する報告書」により、8つの出資法人与市に対して、経営改善事項などの指摘がされていました。今回の意見書は、その報告から約1年が経過し、現在までの経営改善の進ちょく状況について評価などをまとめたものです。

意見書では「改善が図られた事項も多く見られる一方、依然として根幹的な課題の改善が必要な事項も残されている」と総括したのち、法人ごとに具体的な課題を挙げています。

市では、この意見書の内容を踏まえ、課題の改善促進に一層取り組んでいきます。

なお、意見書の全文は、市ホームページに掲載するほか、くるりん広場、各総合支所地域支援課でもご覧いただけます。



改善の進ちょく状況などを評価

〈対象法人〉

- | |
|---|
| ①株式会社ファインビュー室山
【ファインビュー室山等の運営・農業体験事業等】 |
| ②株式会社ほりーでーゆー
【ほりーでーゆー四季の郷等の運営・農業体験事業等】 |
| ③安曇野菜園株式会社
【三郷トマト栽培施設の運営】 |
| ④株式会社三郷農業振興公社
【三郷堆肥センターの運営・有機肥料の販売等】 |
| ⑤社団法人豊科開発公社
【ビレッジ安曇野等の運営・農業体験事業等】 |
| ⑥財団法人豊科文化財団
【豊科近代美術館、豊科郷土博物館等の運営等】 |
| ⑦財団法人三郷開発公社
【ファインビュー室山への温泉供給事業等】 |
| ⑧穂高温泉供給株式会社
【温泉供給事業等】 |

食育推進計画

5年で達成する目標を設定



計画案を手渡す広田会長(中央)と小松副会長(右)

市食育推進会議（会長：広田直子松本大学教授）は2月17日、市食育推進計画の案を市長に提出しました。この計画は、平成21年度4月から5年間を想定し、食にかかわる課題とそれを改善するための具体的な目標、施策などをまとめたものです。市長は「食は、いろいろな部署がかかわっているが、課題を共有することが大切」と述べ、昨年6月から検討を重ねてきた案を受け取りました。この案は2月26日の庁議で正式な計画となり、4月にはダイジェスト版を各戸に配布する予定です。

梓川スマートIC

来春の導入に向け協議会発足

梓川サービスエリアへETC専用インターチェンジの設置を目指す「梓川スマートIC地区協議会（会長：平林伊三郎市長）」の初会合が2月17日、県安曇野庁舎で開催されました。この組織は、社会実験を経ずに導入できるようになった国の制度改正に伴い、同準備会から移行して発足したものです。この会の発足によって、管理、運営方法の検討など、より具体的な協議に進みます。平林市長は「これまで準備会でやってきた作業を検証し、来春に供用できるよう作業を進めたい」と見通しを述べました。



協議会は安曇野市のほか、松本市、国・県の関係機関などで構成